

海外医療通信 2019年12月号

東京医科大学病院 渡航者医療センター

海外感染症流行情報 2019年12月

(1) 全世界：インフルエンザ流行状況

日本では12月中旬になり各地でインフルエンザが流行レベルに入っており、ウイルスの種類としてはH1N1型が多く検出されています（国立感染症研究所 2019-12-18）。米国でも全米30州で流行レベルに入り、2009年の新型インフルエンザ流行以来の早い流行になっています（米国CDC FluView 2019-12-20）。ヨーロッパでは12月中旬の時点で、まだ顕著な流行がみられていません（ヨーロッパCDC 2019-12-18）。

(2) アジア：マレーシアでポリオ患者が発生

マレーシアで27年ぶりにポリオ患者が発生しました。患者はサバ州・Tuaranに住む男児で、ワクチン株由来の1型ポリオウイルスの感染でした（ProMED 2019-12-8）。隣国のフィリピンでも今年9月から、ミンダナオ島などでワクチン株由来ウイルスの患者が発生しており、今後、東南アジア全体でポリオ患者数が増加する可能性もあります。

(3) アジア：トリインフルエンザの発生状況

WHO は今年の 9 月下旬以降の世界のトリインフルエンザ患者発生状況を発表しました（WHO Outbreak news 2019-11-25）。中国では 2013 年から発生していた H7N9 ウイルスの患者が、今回も報告されませんでした。2017 年に患者数が増加して以来、2018 年以降はほぼ発生がなくなった模様です。一方、H9N2 ウイルスの患者が中国で 2 人、インドで 1 人確認されました。いずれも小児で回復しています。

(4) 大洋州：南太平洋の麻疹流行

南太平洋のサモアで麻疹の流行が拡大しています。12 月初旬までに患者数は約 4200 人になっており、62 人が死亡しました（WHO Outbreak news 2019-12-15）。隣国のトンガやフィジーでも患者数の増加が報告されています。オーストラリア東部のブリスベン近郊でも麻疹患者が 8 人発生しており、南太平洋からの流行の波及が懸念されています（ProMED 2019-12-5）。なお、ソロモン諸島とマーシャル諸島では、全ての入国者に麻疹ワクチンの接種証明書の提示を求める措置を 12 月中旬から実施しています（厚生労働省検疫所 HP 2019-12-24）。

(5) アフリカ：コンゴのエボラ熱流行

コンゴ民主共和国で流行中のエボラ熱に大きな変化はみられていません。最近の患者発生数は毎週 10～20 人で、新しい患者が引き続き発生している状況です（WHO Outbreak news 2019-12-19）。昨年 8 月の流行発生以来、累積患者数は 3351 人（疑い含む）で、このうち 2217 人が死亡しました。

（6）中南米：ブラジルでデング熱患者が年間 200 万人に

米州保健機関の報告によると今年の米州でのデング熱患者数は 300 万人に増加しています

（Pan American Health Organization 2019-52 week）。このうちの 7 割にあたる 200 万人がブラジルでの発生でした。ブラジル国内では南部のミナス・ジェライス州やエスプリート・サント州で、昨年より 10 倍を超えるデング熱患者が確認されています（Outbreak news today 2019-12-12,18）。なお、今年のブラジルでは、蚊に媒介されるチクングニア熱の患者数も多く、リオデジャネイロでは約 3 万 8000 人と、昨年より 3 倍以上の数になっています（Outbreak news today 2019-12-20）。ブラジルに滞在する際には蚊に刺されない対策を十分にとってください。

・日本国内での輸入感染症の発生状況（2019 年 11 月 11 日～12 月 8 日）

最近約 1 ヶ月間の輸入感染症の発生状況について、国立感染症研究所の感染症発生動向調査を

参考に作成しました。出典：<https://www.niid.go.jp/niid/ja/idwr-dl/2018.html>

(1) 経口感染症：輸入例としては、細菌性赤痢 10 例、腸管出血性大腸感染症 7 例、腸チフス・パラチフス 2 例、アメーバ赤痢 2 例、A 型肝炎 6 例、E 型肝炎 2 例が報告されています。

細菌性赤痢はエチオピアでの感染が 5 例と多くなっています。

(2) 昆虫が媒介する感染症：デング熱は 23 例で、前月 (34 例) より減少しました。感染国はベトナム (5 例)、インド (4 例) が多くなっています。今年のデング熱累積患者数 (輸入例) は 442 例で、今まで最多だった 2016 年の年間 338 例を大幅に越えました。チクングニア熱は 1 例で、ミャンマーでの感染でした。マラリアは 4 例で、感染国は 3 例がアフリカ (ナイジェリア、ギニア、南スーダン)、1 例がタイでした。

(3) その他：麻疹が 4 例で感染国はタイとカンボジア、風疹は 1 例でフィリピンでの感染でした。

・今月の海外医療トピックス

訪日外国人は日本で蚊対策をしているか？

2014年夏、代々木公園等で蚊に刺された人から多数のデング熱患者が発生しました。この原因として日本人が海外で感染し持ち込んだのか、訪日外国人が自国で感染し持ち込んだのか、いずれかの可能性が考えられています。夏のオリンピック期間中は、デング熱の流行国から来る訪日外国人が増加するため、国内感染が再び発生する可能性もあります。当センターでは、2018年と2019年9月に浅草観光中のタイ人とフィリピン人を対象に、デング熱に関するアンケート調査を行いました。その結果、タイ人の93%、フィリピン人の94%が自国では蚊よけ対策をしているものの、日本滞在中に蚊よけ対策をしていたのは、タイ人で44%、フィリピン人で24%と大変少ないことが明らかになりました。彼らは日本にもデング熱を媒介する蚊が棲息していることを知らないようです。こうした情報を訪日外国人にも提供し、日本滞在中に蚊よけ対策を実施していただく必要があります。（医師 栗田直）